

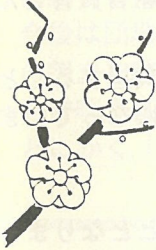


あたらしき大地



1984年3月号

NO1



創刊のことば

理事長 中川藤一

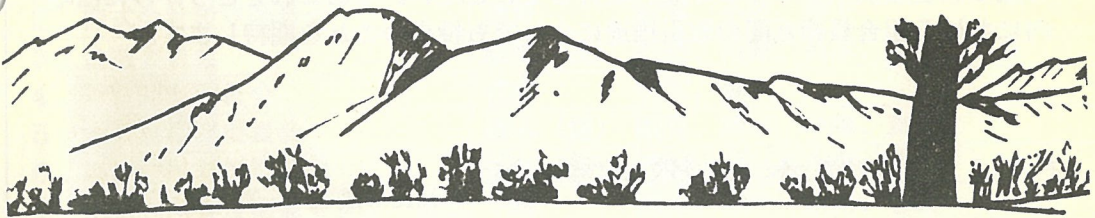
木材団地ニュース「あたらしき大地」がいよいよ昭和59年3月号から発刊されることになりました。大阪木材工場団地協同組合とその組合員のみなさんとの風通しのよいパイプ役に仕上げていってくれることを望んでいます。

58年度の仕事として木材団地の長期ビジョンを作成する過程で組合員の方々から組合の運営方針、事業予定等がすみやかに組合員に伝達される方法を考慮してほしいという要望が強く、それを踏まえた理事会の決定事項でした。早速組合員各社から名称の募集を行い、お正月の組合理事会の投票で上記名称に決定したのです。

編集にあたる事務局は大変だと思いますが頑張ってもらって、スマートで皆さんが楽しんで読みたいくなるニュース紙となることを祈ります。

本紙の名称「あたらしき大地」はフランスのカンヌ映画祭短編の部で1966年グランプリ賞を獲得した女性の映画監督、渋谷和子さんに製作を依頼した木材団地の映画「あたらしき大地」からいただいたものです。

「木材団地ニュース“あたらしき大地”」が皆さんから愛されるニュース紙としていつまでも続いていくことを心から願いたします。



理事会の決議内容から

1. 組合金融事業の推進について

工場団地内の土地建物の名義変更を契機に組合では今後の金融事業を積極的に推進するため、各組合員所有土地に対して坪4～8万円の範囲内で金融を行うことになりました。市中金融取引に比べて有利な金融となっていることから皆さんの利用が大いに期待されています。なお利用を希望される方は組合事務局宛ご照会下さい。

2. 共同警備の実施について

かねてより懸案となっていた団地内の共同警備については、東洋警備保障（株）との提携により組合と利用組合員との三者契約に基づいて実施する運びとなりました。

警備の内容については個々の条件によってまちまちであるが契約、折衝等は組合が窓口になって行います。警備料金は一般価格の半額程度と割安であり今後利用者の増加により更にコスト引下げが可能となる見込ですので組合員皆さんで広く利用されることが期待されています。

なおこの共同警備に必要な保証金（1回線当り5万円）は組合が負担することが決まり又個々の警備料金は組合が共同集金し一括支払することになっています。

3. 委員会制度の発足について

組合事業の運営を活性化するために各種の委員会が設置されることとなりました。委員会には組合員全員がいずれかに参加していただき、今後活発に運営していくことになりました。（なお委員会の内容等については別項を参照されたい。）

《組合員企業の紹介シリーズ》 - 『うちの会社』

木材団地が稼動して17年目を迎えるが発足当初の組合員47社のうち今日まで団地内で事業を継続している組合員は僅か17社。この間、業界の変動やきびしい経済環境などいくたの変遷の中で、組合員の脱退加入が相次ぎ、新旧交替による大巾な増減はあったものの現在の組合員数は44社にのぼっている。

そこでこのたび組合広報紙の発行を機会に題名“うちの会社”として新旧組合員の顔ぶれを順次（アイウエオ順）紹介していきたい。なおこれをきっかけに団地内における組合員相互間の取引推進に少しでも役立つことを期待します。

【その1】 浅野木材株式会社

社長 浅野 寛



当社は明治40年北海道旭川市で創業し、昭和12年に改組して浅野木材（株）とし今日に至っております。この間、昭和の初期に樺太へ進出、造材移入業務を行い昭和10年、大阪に営業部を設置して道材並びに比島よりの直輸入材の販売を開始しました。戦後30年に比島の戦前からの同じシッパーと直輸入業務を再開し、現在はサバサラワク、インドネシアより南洋材原木を輸入して、有力合板メーカーを主体に販売を続けています。一方、旭川支店は北海道で国有林、道有林の立木払下げをうけ各地で針葉樹、広葉樹の造材から製材フローリング、チップまで一貫した業務を行っています。そして昭和28年には道材、南洋材の販売だけでなく合板新建材の拡販をはかるため大阪に旭洋商事（株）を設立しました

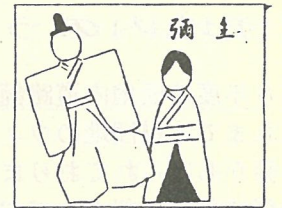
その後、当社が取得した木材団地内の2,000坪の用地に旭洋商事（株）の工場を設置し（昭和45年）ユニット化した銘木化粧貼、組立階段の製造販売を開始しました。

近年浅野木材（株）の輸入原木を利用いただいている各メーカーより製材合板ボード類を購入して販売、集配業務も“あたらしき大地、美原”に結集し加工業務と併せて、お得意各位の多様化するニーズに即応できるようキメ細かな営業活動をしております。

今後は団地内の同業各位との親交とお取引をさらに深め、共存、共栄のため一層の努力を続ける所存であります。とくにラワン合板関係は薄物から30m/m迄を常時豊富に在庫し、木取、プレス加工をしております。“合板”に関しては、とにかく「旭洋商事」にご一報、ご相談賜りますようお願い申し上げます。

組合運営活性化のための

委員会が設置される



今後の組合事業の運営を活性化し、組合員の事業発展に資するため、このたび各種の専門委員会が設置されました。各委員会は理事会の顧問機関として活動し委員会には組合員の皆さん全員がいずれかに参加していただくことになっておりますので今後の運営に積極的なご支援とご協力をお願いしたいと思います。

なお今回、設置された委員会は次のとおりです。

委員会名	委員長	委員
1. 組合出資金検討委員会	高嶋	鈴木、成瀬（孝）
2. 株式会社設立委員会	西野	松本、小笠、井上
3. 金融委員会	成瀬（良）	西野、浅野、貝本、高嶋、豊岡
4. 対税問題委員会	浅野	竹田、東
5. 木栄会推進委員会	橋本（健）	細見、浦本、中畑、真方
6. 地域住民対策委員会	田中（繁）	野村、辰巳、今野、藤本
7. 木材利用普及研修センター設置	中村	浦本、田中、水口、有村
8. 住宅用地分譲委員会	和中	萬喜、新宅、河上
9. 事業委員会	磯口	貝本、林田、服部
10. 財務委員会	中川	浅野、成瀬（良）
11. 団地フェア開催委員会	森岡	山谷、一柳、松山
12. 木材団地街路研究委員会	豊岡	山下、菅原、漆原
13. 住宅団地問題検討委員会	橋本（禎）	和中、林、竹内、中畑
14. 組合遊休土地利用委員会	貝本	中村、橋本（健）、笠井、吉田

（備考）委員長並びに委員の方々の所属会社名は紙面の都合で省略させていただきましたので必要な場合には組合事務局までご照会下さい。

『ちょっと一言』

田中繁男



このたび組合の広報紙が創刊される運びとなり、よろこびにたえない。ネーミングも決まり「あたらしき大地」という七文字が入っている。私は団地内に住んでいてあるとき子供が団地事務所の玄関に“謎の文字”があるという。それが記念碑に刻まれている“あたらしき大地”であった。子供の眼にはここが新しい土地とは映らなかったのである。ここに意識あるものとなないものとの物の見方に対する根本的な相異がみじくも露呈している。新しいとは認識の問題であって、日日是、新たなりの気概をもって毎日を生きるものにとって、物理的にはすでに二十数余の星霜を閲みしてしまっているこの我々の木材団地の大地であっても、意識の上ではつねに“新天地”なのである。

【団地内のうごき】

* 58年度の団地内道路舗装について

これまで木材団地のウィークポイントの一つに数えられていたなかで団地内道路の不備があげられておりました。組合としてはこれを解消するようにかねてから道路の舗装整備に努力しており、今年度中には次の個所の工事を完成する予定になっております。

- 1) 団地中央党通り丸八木材(株)東角より南へステンレスパイプ工業(株)までの延長440m道路
- 2) 同じく(株)高島屋工作所東角より南へクボタ精機(株)までの延長210mとクボタ精機(株)前面東へ145mの各道路
- 3) (協)大阪ツキ板センター倉庫前東西道路延長190mの道路

以上3線の工事はいずれも竹中土木(株)が行っています。工事中は皆様にかたご不便をおかけいたしますがよろしく願いいたします。

* 造成された住宅用地の分譲について

組合創立20周年記念の一環として進められていた住宅用地の造成(狼谷池の西側約1,000坪)がほぼ完成し、近々組合員に分譲されることが決まりました。分譲の方法、時期については今回新たに設置された「住宅用地分譲委員会(委員長、和中武夫氏)」で検討されることになっています。

編集後記

皆様のご協力により木材団地ニュース“あたらしき大地”を創刊することになりました。組合と組合員間の情報紙として大いに役立つよう努力したいと思っておりますので今後ともよろしくご支援下さい。

なお本紙についてご意見、ご要望等がございましたらご遠慮なく組合事務局、編集係(田中)までお申し出下さい。